

ケッティーのFX講座

第9回

ペナントブレイクからの
エントリーパターン

By ケッティー

注意事項

■著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。

本冊子の著作権は、発行者にあります。

本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本冊子入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的:

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項:

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、この書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 損害賠償:

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第4条 契約の解除:

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

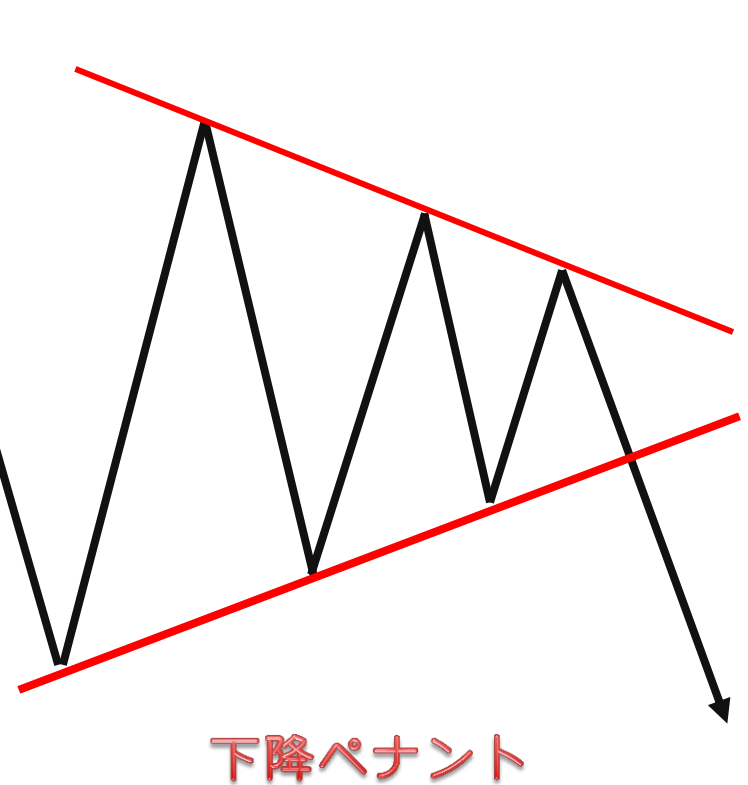
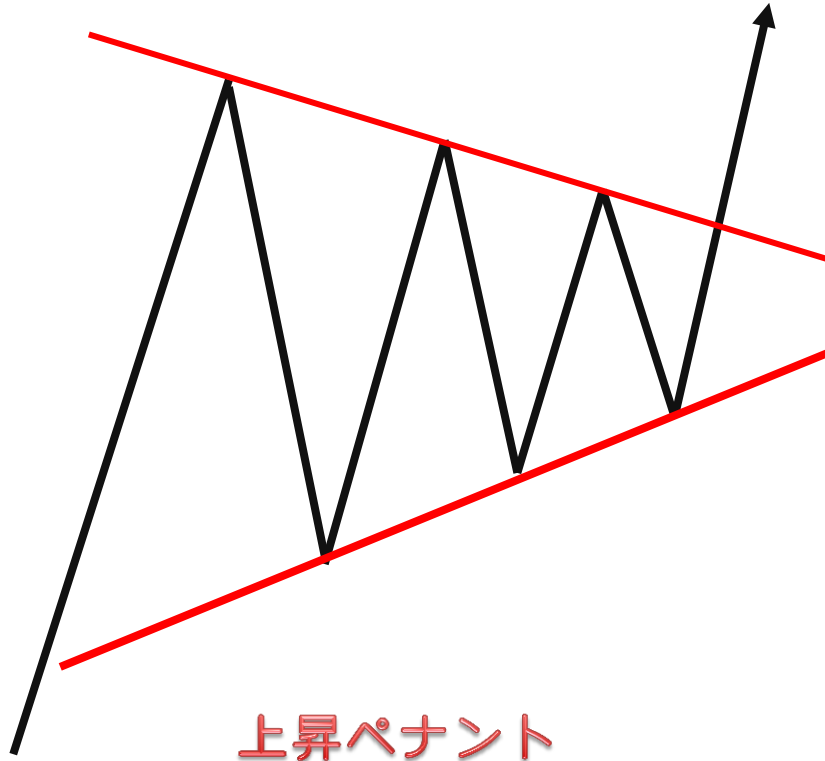
第5条 責任の範囲:

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

ペナント（三角保ち合い）とは？

ペナントとは？

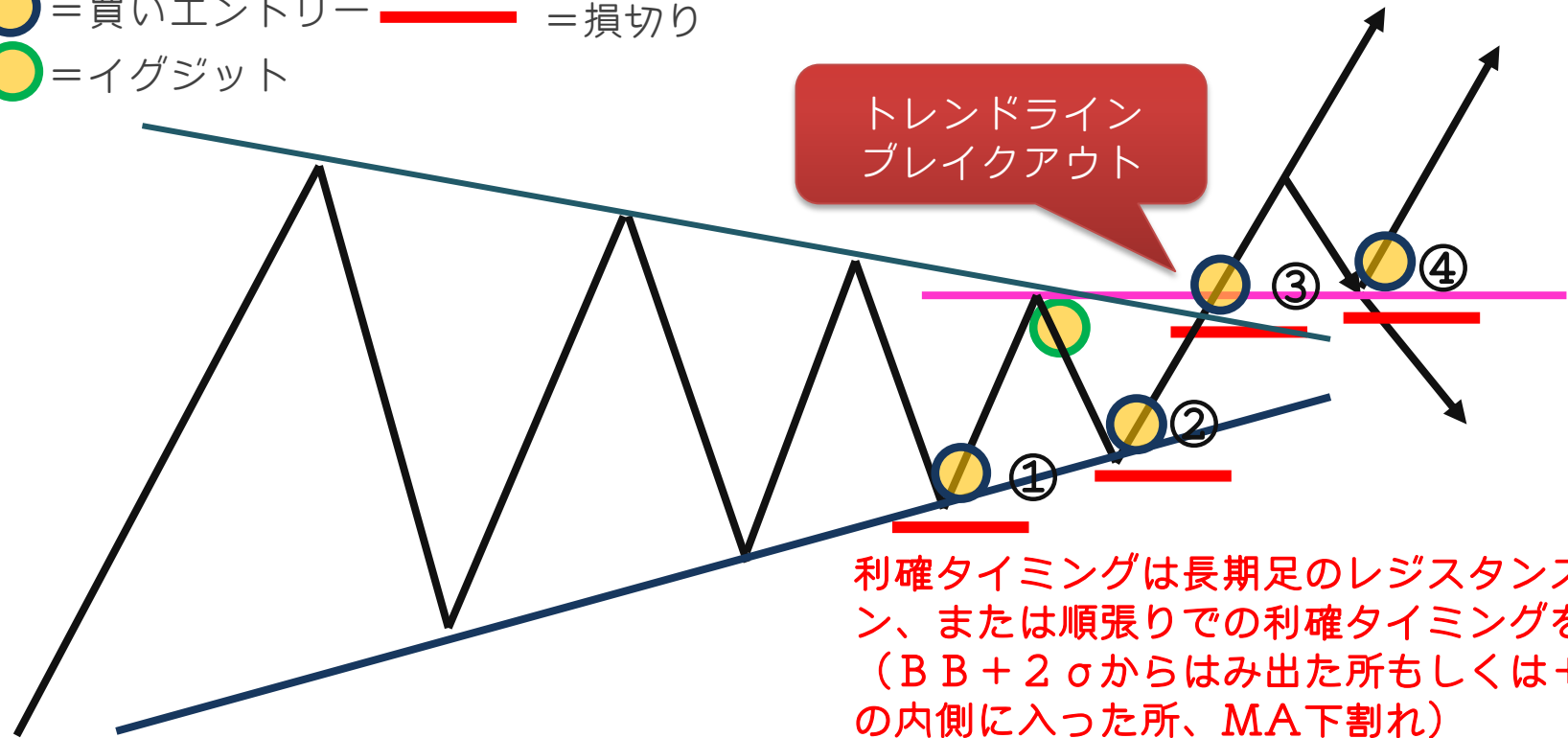
トレンド発生中の揉みあい時に起こるチャートパターン。高値が切り下がり、安値が切り上がり、それぞれにトレンドラインを引き、ペナント（三角）の形を作っていく、トレンドラインをブレイクして、再度トレンドが発生する。



上昇ペナント（三角保ち合い）でのエントリーポイント、 損切り、利確の置き方、エントリーシナリオの立て方

上昇ペナント

● = 買いエントリー ——— = 損切り
● = イグジット



①と②は上へのブレイクアウトを見越して入るエントリーポイント。トレンドラインを下割れしていない事を確認したうえでエントリーする。逆張り手法でのエントリー。逆行の兆しあれば、分割・薄利決済もあり。
③はトレンドラインブレイクアウトでの買いエントリー。ダマシにも引っかかる場所なので注意する。
④はブレイク後の第2波狙い。水平線もしくは順張り押し目でのエントリータイミングになるので、ここではしっかりと乗るようにすること。

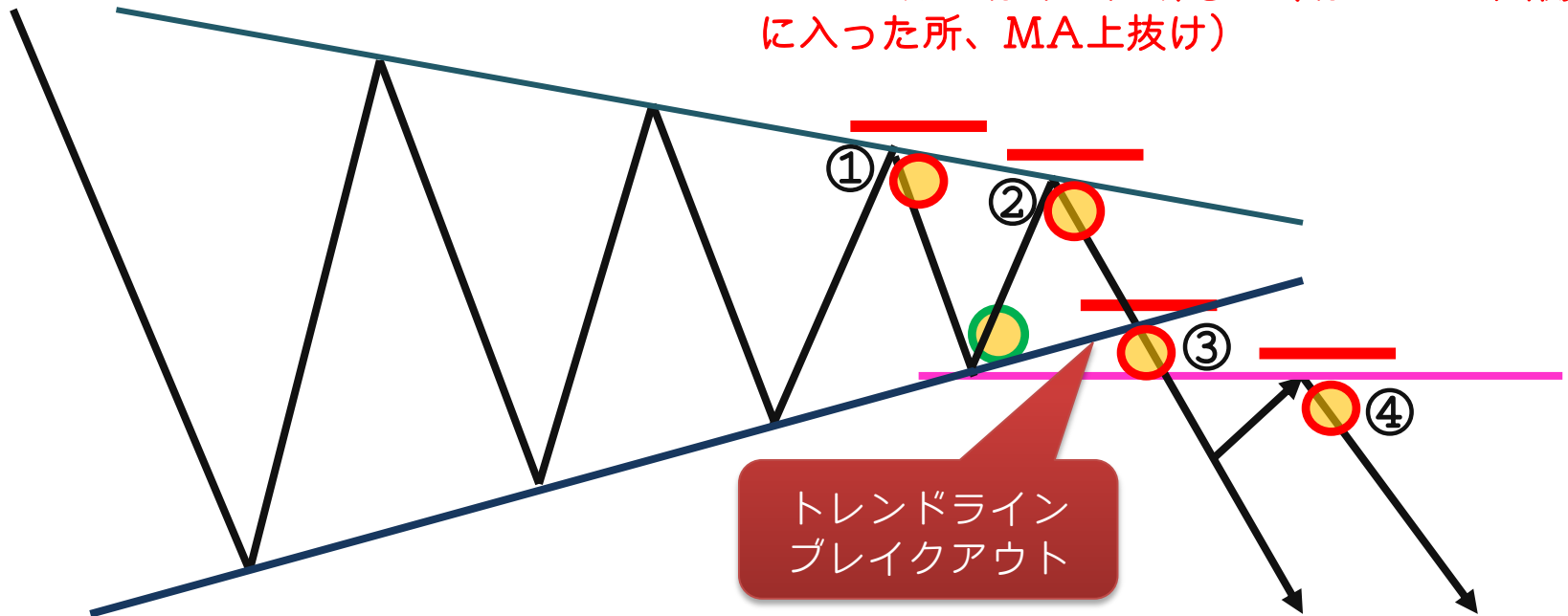
下降ペナント（三角保ち合い）でのエントリーポイント、 損切り、利確の置き方、エントリーシナリオの立て方

下降ペナント

● = 売りエントリー
● = イグジット

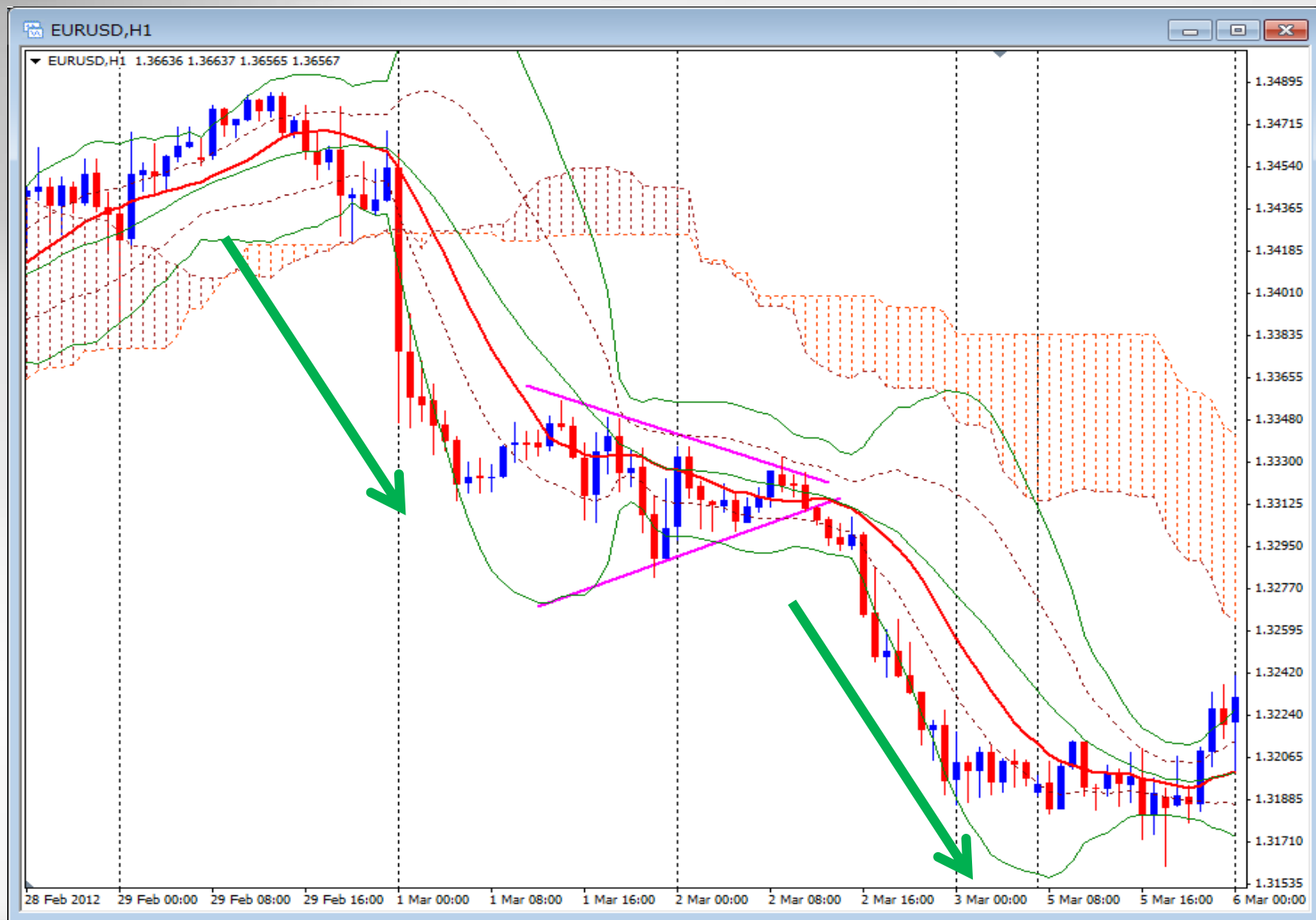
—— = 損切り

利確タイミングは長期足のサポートライン、
または順張りでの利確タイミングを使う（B
B-2σからはみ出た所もしくは-2σの内側
に入った所、MA上抜け）

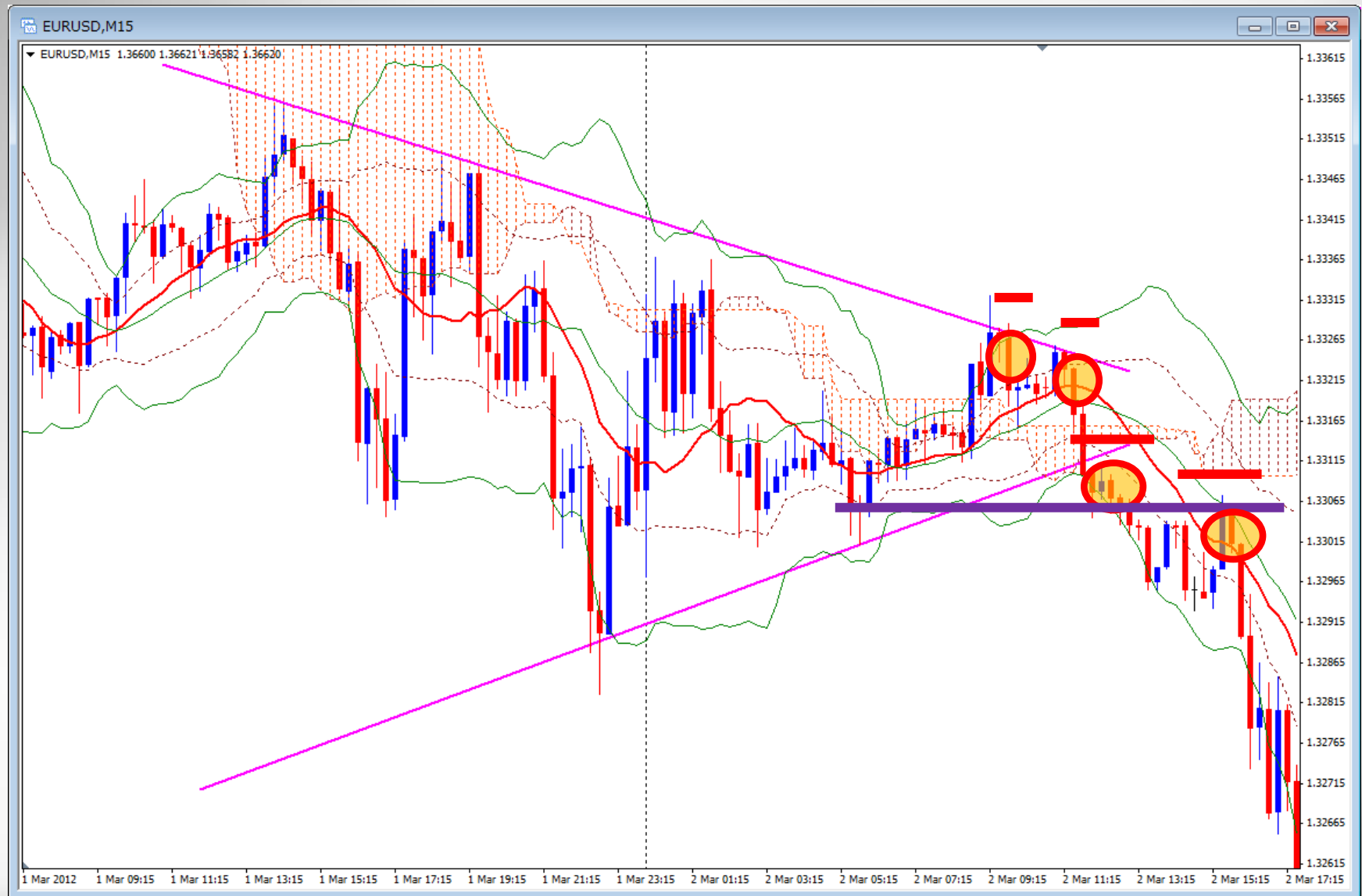


- ①と②は下へのブレイクアウトを見越して入るエントリーポイント。トレンドラインを上抜けしていない事を確認したうえでエントリーする。逆張り手法でのエントリー。逆行の兆しあれば、薄利決済もあり。
- ③はトレンドラインブレイクアウトでの買いエントリー。ダマシにも引っかかる場所なので注意する。
- ④はブレイク後の第2波狙い。水平線もしくは順張り戻り目でのエントリータイミングになるので、ここではしっかりと乗るようにすること。

ペナントの例を見てみよう①



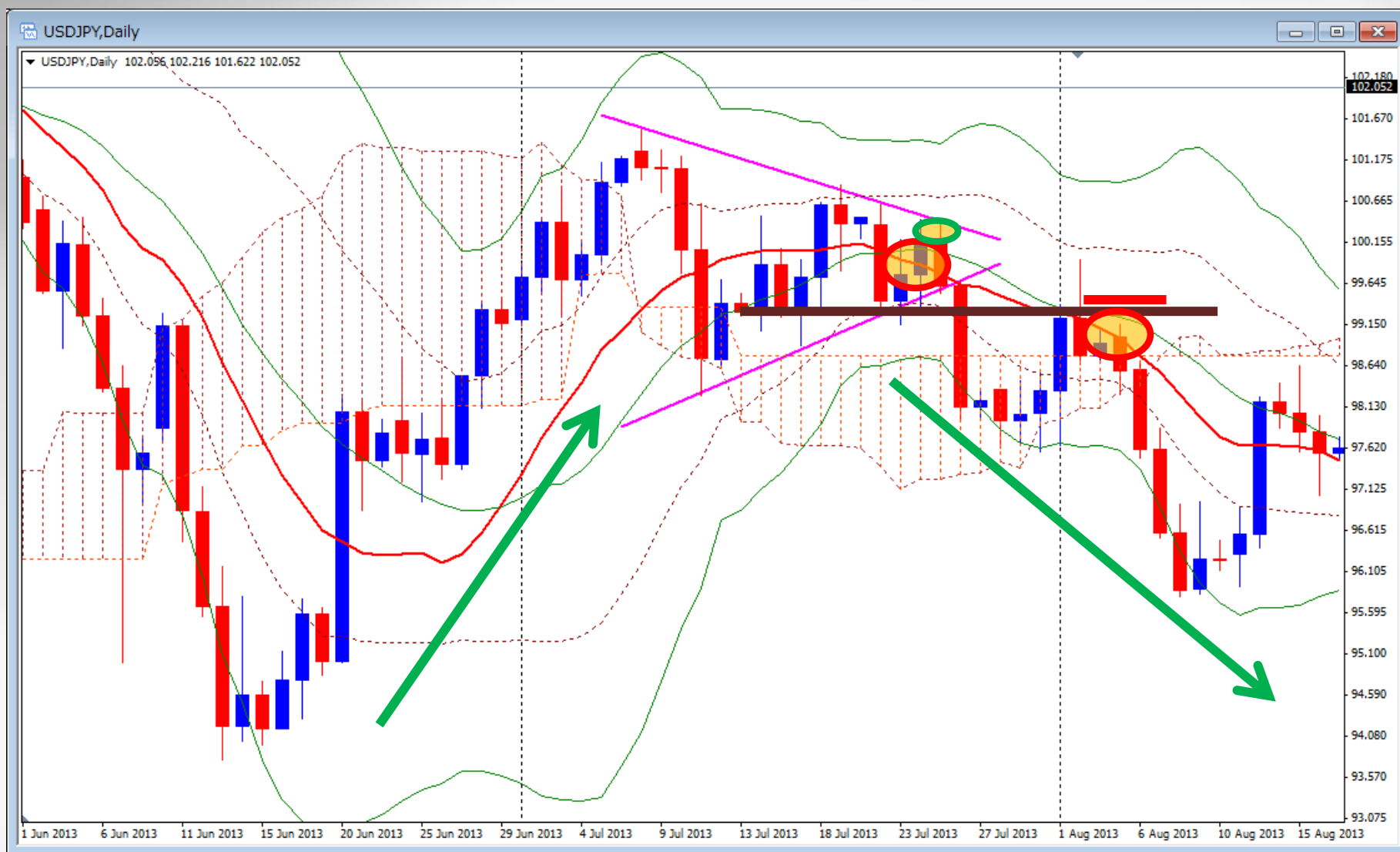
ペナントのエントリータイミング例



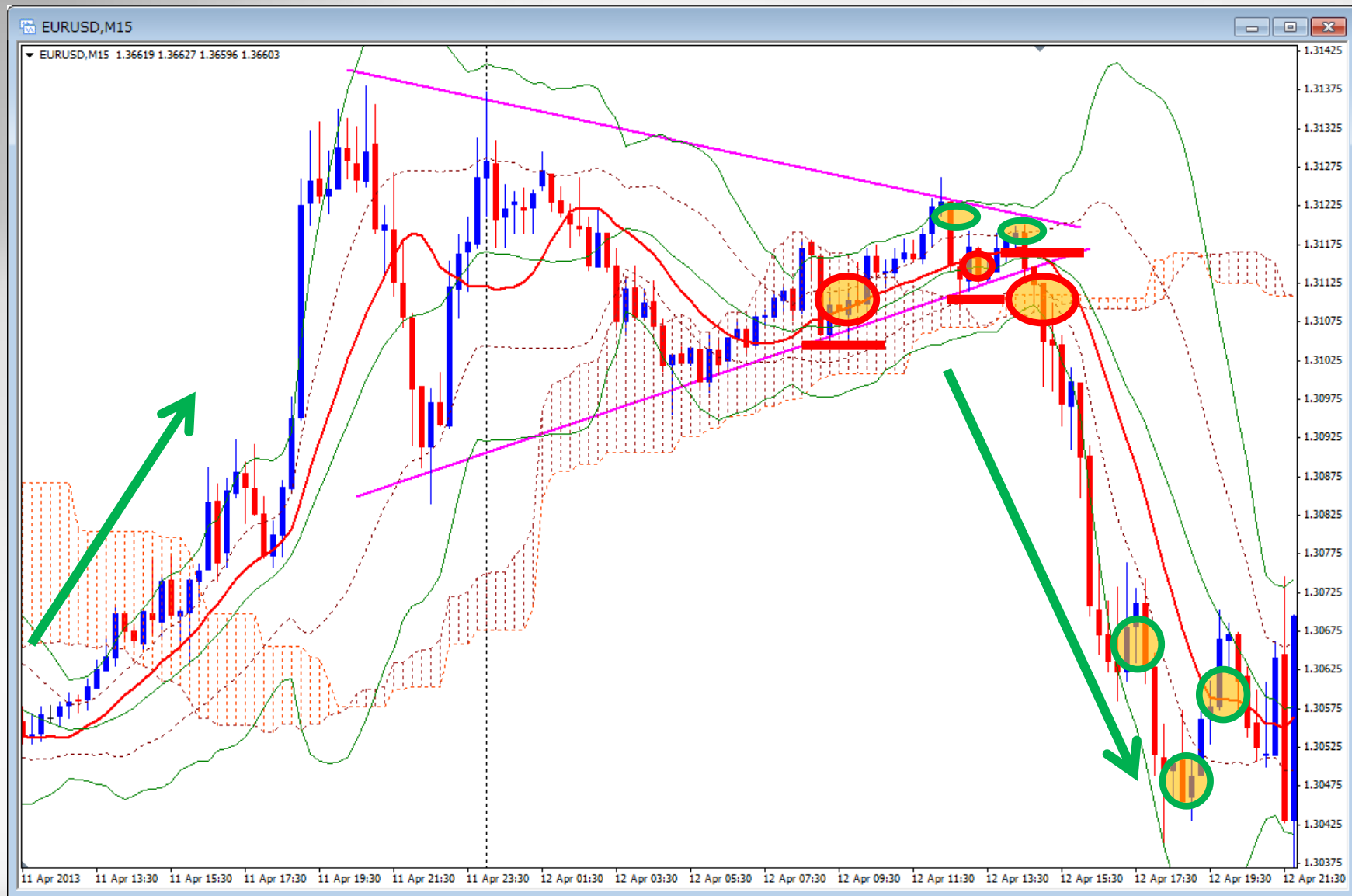
【考察】ペナントブレイクからエントリー

- 今までに解説しているペナントは基本形。上昇トレンドからのペナント形成は上にブレイクし、下降トレンドからのペナントは下にブレイクするとの想定は基本。
- 但し、他のチャートパターンに比べ、ペナントブレイクに関してはどちらにもブレイクする可能性を秘めている。
- つまり、逆に行く時の事も、常に頭の片隅には入れておく。
- できるだけ、ラインを抜けるタイミングではエントリーせずに、逆のトレンドラインから仕掛ける。できなかった場合は見送る。
- 主に1時間足以上のペナント形成は注意して観察をしておき、短期足でタイミングを計る。短期足でペナントを形成しても、長期足のサポレジやインディケーターであっさり逆行するので、あくまで長期足での形成を優先する。

ペナントの例外を見てみよう①



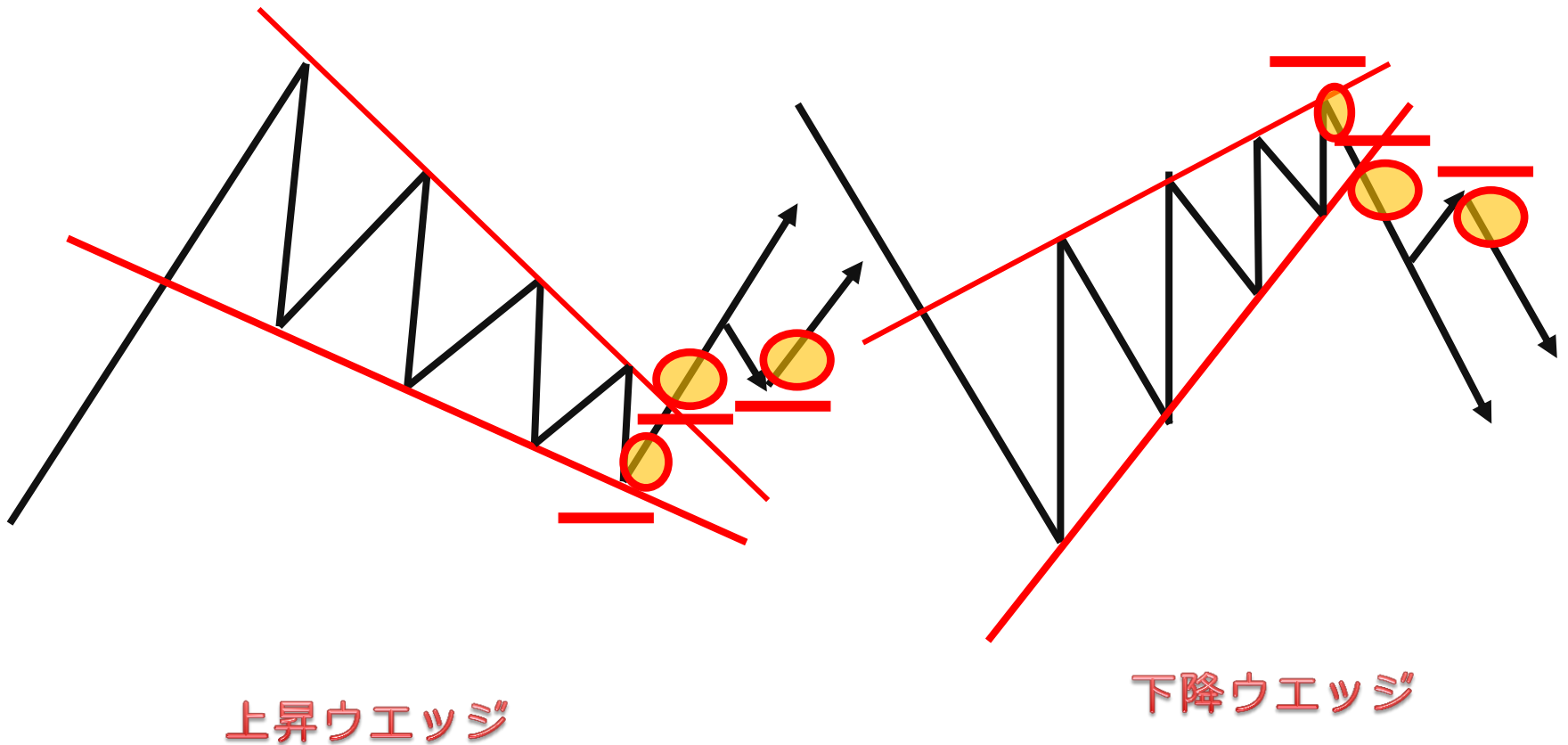
ペナントの例外を見てみよう②



その他のチャートパターンの紹介

ウエッジ

トレンド発生中の揉みあい時に起こるチャートパターン。ペナントの変形版。



ペナントからの エントリーが有効に働く相場環境と注意点

- ①ペナントはトレンド発生中の中段保ち合いでの場面で発生するチャートパターンである。
- ②ペナント形成は主に長期足(1時間足以上)で判断する。短期足で小さなペナントを形成しても、すぐに逆行することがあることを忘れないように。
- ③エントリータイミングはあくまでラインと形状重視。エントリータイミングを順張りなどのルールと混同しないように気を付ける。
- ④考察でも見たように、ペナントに関しては、どちらにブレイクするか想定しづらい面がある。
基本的には直近の流れを継いで、再度同方向にトレンドが発生するが、トレンドの中段保ち合いであっても、トレンド転換を起こす場合があることを覚えておく。
- ⑤ペナント形成時のトレンドラインは、ローソク足の値によって引き直していく。
ヒゲ、実体いずれにしても多く接しているところを見つけて引くようにする。
- ⑥チャートパターンの中でもペナントは多くの市場参加者の認知度が高く、そして注目されやすい形状の為、ブレイクアウトをしたら、かなりの勢いで値が動くいていく場合がある。

逆から仕掛けるポイントと、第2波狙いをしっかりマスターしましょう!